

# 大城ひかるのベトナム

## 通信

- 7 -

シンチャオ (Xin chào) おきなわ



ダラットのドメヌ デ マリー教会。三角屋根は中部高原の少数民族の建築様式という(筆者撮影)

「旅行するなら、どこへ行ったらいいですか」と学生に聞くと、十中八九「ダラットへ行ったら良いですよ」と返ってきます。赴任当初から何度も学生や同僚に「先生、ダラットへ行ったことがありますか」と聞かれるので、ベトナム人に愛されるダラットとはいったい、どんなところだろうと思っただけです。

コロナのため、なかなかチャンスがありませんでしたが、行ってみると、なるほどガイドブックに「ベトナムの軽井沢」と紹介されている通り、ダラットは標高1500m

り、ダラットは森と湖が広がる美しい街でした。新婚旅行のメッカと聞いていましたが、ホーチミンから飛行機で1時間弱と近いからか、家族連れや学生もたくさんいて、気軽に旅行先のようにです。

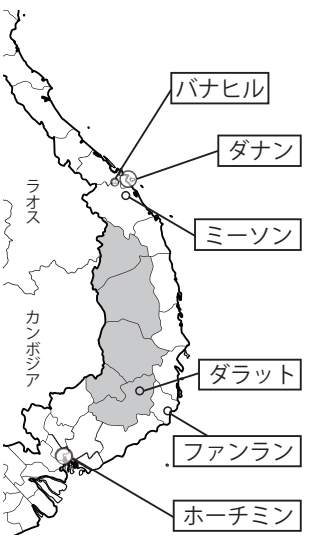
ダラットがあるラムドン省や、コーヒー栽培で有名なダックラック省などベトナム中部にある5省は中部高原と呼ばれ、おおむね1000mの高地にあります。最も高いところでは2000mを超えるのですが、ダラットは標高1500m

# 現代に残る旧宗主国の功

にあり、冷涼な気候や湿度の低さから温帯地域の果物や野菜、花の産地として知られています。少し珍しい果物や野菜を見かけたときは、たいていダラット産と言われます。日系の農業法人や食品製造業なども多いそうです。

ダラットには、グエン王朝最後の皇帝であるバオダイ帝が夏を過ごした宮殿、ロシアで学んだ女性建築家による建築物「クレイジーハウス」、ピノクの「ドメヌ デ マリー教会」など見どころも多く、さらに自然環境を利用したトレッキングなどアクティビティは欧米人に人気だそうです。

もともとダラットは少数民族の住む土地でした。案内してくれたガイドによると、ダラットという名前は「ラット(も



ベトナム地図(着色部分は中部高原の5省)

とはラック)人が住む村」に由来しているそうです。1800年代後半になり、宗主国だったフランス人が高地に目を付け、避暑地として開拓していったのです。東海岸のファンラン市と結ぶ鉄道も敷設されました。

ベトナムにはフランス人による避暑地がいくつかあり、最も有名なのはダナンの西にあるバナヒルです。ここは現在、テemaparkとなっており、入場料が75万ドン(約3700円)するにもかかわらず、インスタ映えするゴールデンブリッジや世界一長いケープルカーなど、大人も楽しめるアトラクションで超人気。Kポップスターも訪れるそうです。

植民地主義を肯定するものではありませんが、負の遺産が今では観光業の目玉となっている例はいくつもあります。「かつてフランスは我々にひどいことをしたが、同時に後世の資産も残してくれた」。バナヒルを案内してくれたガイドの言葉が重く心に残りました。

ととはラック)人が住む村」に由来しているそうです。1800年代後半になり、宗主国だったフランス人が高地に目を付け、避暑地として開拓していったのです。東海岸のファンラン市と結ぶ鉄道も敷設されました。

ベトナムにはフランス人による避暑地がいくつかあり、最も有名なのはダナンの西にあるバナヒルです。ここは現在、テemaparkとなっており、入場料が75万ドン(約3700円)するにもかかわらず、インスタ映えするゴールデンブリッジや世界一長いケープルカーなど、大人も楽しめるアトラクションで超人気。Kポップスターも訪れるそうです。